

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	熊本県	市町村名	菊陽町	大学名	
派遣日	令和7年7月25日(金曜日) 1 開会 午後1時30分～ 2 教育委員会挨拶 3 講師紹介 4 研修 午後1時35分～午後3時00分 演題:「在籍学級を生きる学びの場に～日本語指導、在籍学級の授業それぞれを通して～」 講師:甲府市立伊勢小学校 今澤 悌 様 5 質疑応答 午後3時00分～午後3時10分 6 閉会 午後3時10分				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	菊陽町防災センター(〒869-1192 熊本県菊池郡菊陽町大字久保田2800番地)				
アドバイザー氏名	今澤 悌(甲府市立伊勢小学校 教諭)				
相談者	菊陽町教育委員会学務課				
相談内容	・日本語指導と教科学習を統合したJSLカリキュラムをどのように進めるのか。 ・日本語指導を行う際にどのような点を重視するか。				
派遣者からの指導助言内容	<p>「日本語と教科の統合学習」は、日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを一つのカリキュラムとして構成するもので、子どもの実態に応じた個別カリキュラムの作成、具体物や直接体験による学びの支援、日本語表現の調整・明確化が特徴である。このプログラムは、児童生徒が「参加できない」から「参加できるように」、「理解できない」から「理解できるように」支援することで、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力、社会性の育成を目指すことができる。</p> <p>授業では、教科の目標に加え、それを達成するために必要な日本語の目標(語彙や表現)を設定する。日本語指導における支援の工夫として「理解支援」「表現支援」「記憶のための支援」「自立のための支援」「情意面への支援」の5つの観点から具体的な手立てを検討することが大事である。その中の理解支援は、言い換え、視覚化(実物、絵、写真、図、色分け)、例示、比喩、対比、明示、簡略化、整理、補足、関連づけ、既有知識の活性化などが挙げられる。表現支援は、選択肢の提示、絵や写真、図などの言葉以外の表現方法の活用、モデル文の提示、キーワードの提示、対話による引き出し、母語での表現などが挙げられる。他にも、教師の話し方をゆっくり・簡単な言葉にする、言語以外の情報を豊富にする(図、イラスト等)、情報を整理・簡略化するといった工夫も重要である。</p> <p>今後ますます日本社会における外国人材の増加が進行していくと考えられる。このような背景から、中央教育審議会でも外国人児童生徒等の教育の充実が重要事項として議論されており、文部科学省の教育振興基本計画においても、外国人児童生徒等の</p>				

(様式3)

	<p>教育の充実が掲げられている。特に、外国につながる子どもの多様性を「長所・強み」として捉え、その可能性を引き出して発揮させていく視点が重要である。彼らが将来にわたって我が国に居住し、共生社会の一員として日本を形成する存在となることを前提に、きめ細やかな指導を通じて適切な教育の機会が提供されるべきである。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">○「教科の目標」と「日本語の目標」を明確にし、双方を達成するための授業づくりを推進します。○難しい言葉を安易に簡単な言葉に置き換えるのではなく、絵や写真などの視覚的な補助教材を活用したり、繰り返し練習する機会を設けたりするなど、児童生徒の思考力を高める工夫を推進します。○今回の研修で得られた知見を参加した教職員から参加校の全教員に共有し、研修で学んだ内容を実践できる機会を設けます。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。